

# クラシアルタイル 施工要領書

東リ株式会社  
CS 環境室

- ◇ 本要領書は、ビニル床タイル「クラシアルタイル」を施工する為の施工要領書です。  
施工を始める前に本要領書を読み、十分に理解した上で施工を行ってください。

## 1. クラシアルタイルに関する注意事項

- 1) クラシアルタイルは、硬さが特徴のタイルです。その為、段差や凹凸があると下地に馴染まず浮いてしまう場合があります。事前に不陸の確認を充分に行い、不陸がある場合は下地を平滑に補修してから施工してください。
- 2) クラシアルタイルは、クセがつくと取れにくい特徴があります。タイルを壁に立てかけることや、平滑でない箇所に置かないようにご注意ください。
- 3) クラシアルタイルは、過度な衝撃を加えるとタイルにヒビや割れが発生することがあります。丁寧に取り扱ってください。
- 4) クラシアルタイルのピールアップ工法では、粘着剤の塗布方法、乾燥時間が通常と異なります。「2. 指定接着剤および粘着剤」をよく確認頂いた上で施工を行ってください。
- 5) クラシアルタイルはピールアップ工法可能な製品ですが、粘着力が強く剥がしにくいことがあります。その点をご留意いただいた上で工法選定を行ってください。
- 6) クラシアルタイルを貼り付ける際は、少し緩めに貼り付けてください。塩ビ樹脂製であるため、きつめに施工すると温度変化が加わると突き上げを起こすことがあります。また、壁際のカットも緩めにカットしておさめてください。
- 7) 室温 15℃以下、ピールアップ工法で寸法 152.4×914.4mm のタイルを施工する際は、長手方向のタイル間には専用スペーサーをご使用ください。

## 2. 製品規格

| 硬質ビニル床タイル | 厚さ    | 寸法：巾×長さ         | 備考      |
|-----------|-------|-----------------|---------|
| クラシアルタイル  | 2.2mm | 152.4mm×914.4mm | 4 面取り加工 |
|           |       | 457.2mm×457.2mm | 4 面取り加工 |
|           |       | 304.8mm×457.2mm | 4 面取り加工 |

## 3. 指定接着剤およびピールアップ形接着剤

| 工法名  | 下地                     | 接着剤                          |
|------|------------------------|------------------------------|
| 一般工法 | 木造床(合板など)              | エコ GA セメント EX<br>(細目のくしばけ使用) |
|      | クッションフロア下地・塩ビタイル       |                              |
|      | 表面が平滑なフローリング           |                              |
| —    | 乾燥したモルタル・コンクリート下地      | エコ AR600                     |
|      | 木造床(合板など)              | エコ AR600、US セメント             |
|      | クッションフロア下地・塩ビタイル       | US セメント                      |
|      | 表面が平滑なフローリング           | US セメント                      |
| 耐湿工法 | 湿気のおそれのあるモルタル・コンクリート下地 | US セメント                      |

◆エコ GA セメント EX◆

|       |                                                             |
|-------|-------------------------------------------------------------|
| 組成    | アクリル樹脂系エマルジョン形                                              |
| 標準手配量 | 0.20～0.25 kg/m <sup>2</sup>                                 |
| 待ち時間  | 30～80 分（冬：100～180 分） *細目刷毛を用いる                              |
| 特長    | 強粘着のピールアップ形接着剤。乾燥した下地に最適。<br>初期粘着力に優れ、強いズレ抵抗を持っている。再接着力がある。 |

◆エコ AR600◆（乾燥したモルタル・コンクリート下地）

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 組成     | アクリル樹脂系エマルジョン形               |
| 標準手配量  | 0.30kg/m <sup>2</sup>        |
| 待ち時間   | 10～20 分                      |
| 貼付可能時間 | 10～60 分                      |
| 圧着時間   | 貼付け後 30 分以内                  |
| 特長     | 初期粘着力があり、作業性に優れる。圧着後の収まりが良い。 |

◆U S セメント◆（湿気のおそれのある下地、吸水性のない下地の場合）

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 組成     | ウレタン樹脂系                        |
| 標準手配量  | 0.36kg/m <sup>2</sup>          |
| 待ち時間   | 20～30 分                        |
| 貼付可能時間 | 20～80 分                        |
| 圧着時間   | 貼り付け後 30 分以内                   |
| 特長     | 一液反応型で施工性が良い、初期粘着力に優れた、耐水用接着剤。 |

4. 使用工具・使用部材等

一般のビニル床タイルの施工に準じます。

|                  |                |               |
|------------------|----------------|---------------|
| (1) カッターナイフ      | (2) 直線定規・差し金 等 | (3) チョークリール   |
| (4) ディバイダー（コンパス） | (5) ハンドローラー    | (6) 瞬間接着剤     |
| (7) トーチ、ヒートガン 等  | (8) カンナ        | (9) その他床施工用道具 |

5. 下地の注意点

平滑かつ湿気のない、堅牢な下地に施工してください。不陸があると、目地段差等の原因になるため、下地に適した補修材を用いてから施工を行ってください。ゴミ、ホコリ等は完全に除去してください。接着剤が上手く塗布できない上、接着不良の原因になります。

◎施工可能下地

○下地全般に関する注意点

《平滑度、水平制度》

- ・段差や凹凸は無くして平滑にする

《表面状態》

- ・ワックスやフロアコーティングが除去されていること
- ・油汚れがないこと
- ・表面材の突板や化粧シートのはく離がある場合は、除去されていること  
※除去が不十分な場合、浮きが発生するため十分にはがすこと  
※除去後、施工可能な下地材の条件を満たしていること
- ・接着剤などのべたつきの付着がないこと

○耐湿工法の下地に関する注意点

- ・ぬれや湿りがいないこと(ケット社水分計でDモード 620 未満)
- ・床下換気・地面からの防湿処理がされていること

### ◆モルタル・コンクリート下地

- ①下地に大きな亀裂やえぐれた穴などがあると、クラシアルタイルが割れる原因となります。  
クイックレベラー等の下地補修材を使い、平滑に補修してから施工してください。
- ②ケット社水分計「HI-520-2」を使いDモードで下地水分を測定し、下記表に従って工法を決め、工法に沿った指定接着剤を選択してください。620 以上の場合は、下地が乾燥するまで工期を延ばしてください。

#### <工法の目安>

| グレード | 選択 D.MODE                       | 従来の下地水分指標 (%) | 施工方法目安 |
|------|---------------------------------|---------------|--------|
| I    | HI-500 : 490 未満                 | 8%以下          | 一般工法   |
|      | HI-520、HI-520-2 : 440 未満        |               |        |
| II a | HI-500 : 490 以上 690 未満          | 8~10%         | 耐湿工法   |
|      | HI-520、HI-520-2 : 440 以上 620 未満 |               |        |
| II b | HI-500 : 690 以上                 | 10%以上         | 施工不可   |
|      | HI-520、HI-520-2 : 620 以上        |               |        |

床施工技術研究協議会の「コンクリート床下地の表層部の諸品質測定方法・グレード」による

### ◆クッションフロア下地

#### (1) 下地条件

- ①床にしっかり固定されていること。
- ②継ぎ目部分および壁際との間にすき間がないこと。
- ③油、ワックス等のコーティング、汚れがないこと。

#### (2) 注意点

- ①下地のクッションフロアが厚く（厚み 3.0mm 以上）、柔らかい場合、タイルの端部付近に荷重が掛かると、浮き及び目地段差が発生するおそれがあります。

#### (3) 補修方法

##### 1) クッションフロアが壁際及び継ぎ目で反っている場合

- ①反っている部分をカットして剥がします。
- ②下に残っているクッションフロアの破片及び接着剤をケレンで除去し、同じ厚みのクッションフロアを接着剤（エコロイヤルセメント等）で貼り付けてください。

##### 2) 継ぎ目部分が処理されていない場合

- ①下地クッションフロアが反っていない場合でも継ぎ目処理剤（シームシーラー等）を入れてください。

##### 3) 下地クッションフロアのベッドや家具による置き跡のへこみが目立つ場合

- ①へこみ部分を切り取り同じ厚みのクッションフロアの端切れ等で、部分補修することをお勧めします。

### ◆フローリング、遮音フローリング下地

#### (1) 下地条件

- ①床にしっかり固定されていること。
- ②継ぎ目部分および壁際との間に隙間がないこと。（隙間がある場合は、パテ等で補修すること。）
- ③油、ワックス等のコーティング、汚れがないこと。
- ④段差のないこと。

#### (2) 注意点

- ①段差がある場合はサンダー等で削って平滑にしてください。
- ②表層が剥がれている場合は、削り取って木材用パテ等で補修してください。補修は平滑に行ってください。平滑に補修できていない箇所は、クラシアルタイルの施工後の浮きの原因になる可能性があります。また使用するパテによってはエコ GA セメント EX の接着性が落ちるものがあります。ご注意ください。

## ◆合板下地

### (1) 下地条件

- ①床にしっかり固定されていること。
- ②すき間、たわみがないこと。
- ③油、塗料等による汚染がないこと。
- ④合板の継ぎ目などによる段差の無いこと。

### (2) 注意点

- ①床にしっかり固定されていない場合は、合板の伸縮により施工されたクラシアルタイルに、目地隙や突き上げが発生する場合があります。
- ②合板の継ぎ目に段差がある場合は、カンナ、サンダー等で削って平滑にしてください。

## 6. 施工の手順

### (1) 材料の搬入・保管

- ①乾燥した室内の平滑な床面に、横に寝かせて保管してください。縦置きするとタイルが曲がり、変形や破損する場合があります。また上に重量物を載せないでください。
- ②放り投げたり高所から落とすとタイルが割れることがあります。丁寧にお取り扱いください。

### (2) 割り付け

#### ①短手方向（幅方向）

基本は左右対称にしてください。

端物が  $152.4\text{mm} \times 914.4\text{mm}$  は 50mm  
 $457.2\text{mm} \times 457.2\text{mm}$  は 100mm  
 $304.8\text{mm} \times 457.2\text{mm}$  は 100mm 未満にならないように割り付けてください。

#### ②長手方向（縦方向）

上下対称でなくてもかまいません。

端物が  $152.4\text{mm} \times 914.4\text{mm}$  は 200mm  
 $457.2\text{mm} \times 457.2\text{mm}$  は 100mm  
 $304.8\text{mm} \times 457.2\text{mm}$  は 100mm 未満にならないように割り付けてください。

### ※注意点

小さくカットしたものが貼られる場合、重量物などを載せるとタイルが浮き上がる場合があります。やむをえず、上記サイズ以下のタイルが貼り付けられる場合は、タイル裏面に瞬間接着剤（アロンアルファ）を点付けて施工してください。瞬間接着剤で貼り付けた場合は、貼り替えの際に下地を破壊する場合があります。

### (3) 接着剤の塗布

#### <接着剤>

貼り付け部位の基準線に沿って、指定接着剤を塗布し、適切なオープンタイムを取ってください。

なお、接着剤の貼り付け可能時間を考慮し、貼り付け可能時間内に貼れる面積に接着剤を JIS 刷毛で塗布してください。

#### <ピールアップ形接着剤>

細目刷毛を使い、 $0.20 \sim 0.25 \text{ kg/m}^2$  の塗布量で粘着剤をムラなく塗布してください。塗布後、ピールアップ形接着剤が半透明になるまで乾燥させてください。

### ※注意点（ピールアップ形接着剤の場合）

- ①細目刷毛より塗布量が少ない刷毛を使用すると施工後に浮きが発生する等の原因になります。
- ②エコ GA セメント EX が半透明になりにくい場合は、送風機を使うか、窓を開けて通風すると速く乾きますが、埃等の付着に注意してください。外気温が低い場合は、室温が下がってしまうので、通風はお勧めできません。送風機等を使用してください。

- ③エコ GA セメント EX がクラシアルタイル表面に付着した場合は、  
即座に、水を含ませた柔らかい布でふき取ってください。時間が経過して接着剤が透明になった場合は、水では落にくくなります。エタノールを含ませた柔らかい布でふき取ってください。

(4) タイルの切り込み

1) 壁際の切り込み

切り込みを行うタイルを、1枚手前のタイル上に正確に乗せ、別のタイル1枚を壁に沿わせてカットしてください。

※注意点

- ①クラシアルタイルは一見硬いタイルですが、表面にカッターナイフで切込みを入れ折り曲げ、裏面に切り込みを入れると容易にカットすることが出来ます。
- ②切り口が汚いときや、きつめのときはカンナ等で修正してください。
- ③タイルに細かな切り込みを入れて折り曲げる際、無理に曲げて割るとタイルが破損する可能性があります。その際は裏面への切り込みや裏面を加温してから折り曲げてください。

(5) 貼り付け

- ①基準線に沿って貼り付けてください。
- ②クラシアルタイルのサイズは、3種類あります。各タイルの形状毎に指定の貼り方がある場合は、指定に沿った貼り方で、貼り進めてください。

※注意点

- ①クラシアルタイルは、きつめに施工されると後で、突き上げ・浮きが発生する場合があります。ゆるめに施工してください。
- ②室温 15℃以下、ピールアップ工法で寸法 152.4×914.4mm のタイルを施工する際は、長手方向のタイル間には専用スペーサーをご使用ください。
- ③壁際に巾木が後付けで取り付けられる場合は、巾木で隠れる範囲で、隙間を開けて貼り付けてください。

(6) 圧着

ハンドローラー等を用いて十分に圧着してください。下地になじみにくい場合はヒートガンやトーチランプ等を用いてタイルを柔らかくしてからローラー掛けしてください。

(7) 施工上の注意点

- ①接着剤のみ出しは、エタノールで速やかに除去してください。  
シンナーや鋭利な刃物でこすることは、表面に傷を付ける危険があるので避けてください。
- ②ワックス塗布は、お避けください。  
ワックスが付きにくい表面コートを行っているのでワックス塗布はしないでください。
- ③施工後一週間は直射日光、冷暖房による急激な温度変化、水洗いは避けてください。
- ④室温 10℃以上で施工してください。

7. 部分貼り替えについて（ピールアップ工法）

(1) 事前の準備

貼り替える前に、貼り替えるクラシアルタイルの上に新しいクラシアルタイルを仮置きして、色調及び大きさを確認してください。クラシアルタイルは製造ロットにより、若干の寸法差があります。また、長期間使用した場合、光沢差や色調の変化等がある場合があります。違和感がない事を確認してください。違和感がある場合は、他のクラシアルタイルとローテーションして貼り直してください。

※クラシアルタイルは部分貼り替えの際、違和感が少ないように、一枚一枚に色差が付けてあります。

(2) 剥がし作業

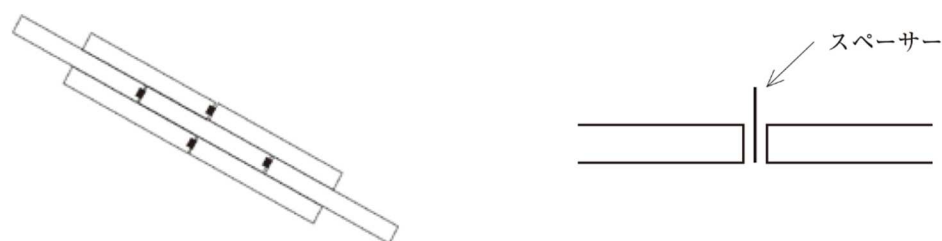
- ①粘着力が強く剥がしにくいことがあります。  
その点をご留意いただいた上で工法選定を行ってください。
- ②クラシアルタイルの端にカッターの刃などを入れて軽く浮かせた後、ゆっくり剥がしてください。

- ③クラシアルタイルを剥がした後に、クラシアルタイルの屑やゴミなどがある場合は綺麗に除去してください。
- ④クラシアルタイルを剥がした後に、目地補修剤等が残っている場合は綺麗に除去してください。  
綺麗に除去せずにクラシアルタイルを貼ると、納まりが悪くなります。

### (3) 貼り付け作業

- ①クラシアルタイルを剥がした後に下地の接着力を確認してください。接着力が低下している時は、既設のエコ GA セメント EX を除去した後に再度塗布してください。
- ②エコ GA セメント EX を再塗布した場合は、エコ GA セメント EX が半透明になるまで待ってください。
- ③剥がした箇所に新しいクラシアルタイルを貼り付けます。カットされているタイルの場合は、正確にタイルの大きさを確認し切り込んで、“ゆるめ”に納めます。
- ④貼り付け後は、ハンドローラー等で十分に圧着してください。下地になじみにくい場合はヒートガンやトーチランプ等を用いてタイルを柔らかくしてからローラー掛けしてください。
- ⑤ピールアップ工法で 152.4×914.4mm サイズを、室温 15℃以下で施工する際は、長手方向に 0.3mm の隙間を開けて貼り付けてください。隙間の調整には専用スペーサーをご使用ください。

スペーサーイメージ図



以 上